

窃盗未遂保護事件

意見書

令和○年○月○日

福岡家庭裁判所 御中

少 年 ○ ○
付添人弁護士 福岡 九州 男

上記少年に対する窃盗未遂保護事件につき、以下の理由により少年鑑別所送致を伴う少年法17条1項2号の観護措置に付する必要性はなく、在宅における調査・審判が相当と思われるので、2号観護措置を決定されないように意見を述べる。

第1 2号観護措置の要件

1 2号観護措置の要件として、通常、次の事項が指摘されている(武内謙治「少年法講義」217頁)。

- (1) 少年が住居不定であること及び逃亡すると疑うに足りる相当な理由があること
- (2) 証拠湮滅の可能性があること
- (3) 身柄を拘束しておかないと、審判又は調査のための出頭確保に不安がある場合
- (4) 少年の環境の状況から判断して、少年の調査・審判のために身柄拘束の必要性のある場合
- (5) 身柄を確保しておかないと再犯の危険性がある場合
- (6) 少年の心身の状況、性格傾向からみて、その身体を確保しなければ、心身鑑別が十分に行えないと認められる場合
- (7) 決定の執行を確保する必要性がある場合

2 しかし、少年においては、以下述べるとおり上記要件は全く満たしておらず、2号観護措置がとられるべきではない。

第2 2号観護措置要件の不存在

- 1 少年は両親と同居中であって定まった住居があり、これまでも特に家出をしたことなどはなく、逃亡のおそれは全くない。
- 2 すでに捜査は終了しており、少年自身も自らの行った行為を認め、警察官の取調べに対しても余罪も含め積極的に供述していることもあわせ考えれば、証拠湮滅の可能性は全くない。
- 3 少年は、上述のとおり警察官や検察官の取調べに対しても積極的に自らの行った行為を供述しており、その姿勢は調査や審判においても同様であると考えられる。同居の両親も、少年を伴って審判に出頭するつもりであり、少年自身も必ず出頭することを誓っている。したがって、出頭確保に不安はない。
また、同様に決定執行の確保についても不安はない。

- 4 少年は、両親及び妹と同居中の高校生であり、高校にも柔道部の推薦で進学しており、入学後は毎日の朝練や放課後の練習に出席し、高校も真面目に通っていて、理由のない遅刻や早退、欠席はない。

本件非行は、毎日朝から夜 10 時まで柔道漬けの日々を送っていることを不憫に思った両親が、今年の 10 月頃から門限を 12 時とし、夜に友達と遊ぶことを許したことが発端となり、同級生らと遊ぶ中で、同級生が主導するのに追随してしまい、起こしてしまったものである。

したがって、そもそも非行性はそれほど深くはなく、またすでに、本人自身が反省を深めている。

現在は夏休み期間であるが、柔道部の練習は毎日ある上、熊本での合宿も予定されているところ、少年は、今後は部活が終わった後はまっすぐ家に帰ることを誓っており、両親も門限を遅くしたことが本件非行のきっかけになっていることを十分に自覚し、今後は少年を厳しく監督していくことを誓っている。

したがって、少年の環境状況からは、身柄拘束を行う必要は全くないし、また、少年の調査や心身鑑別のために身柄拘束が必要であるというような事情も存在しない。

- 5 上述したとおり、少年は柔道の推薦で、柔道については県内でも有数の高校に進学し、現在は 1 年生であるにも関わらず、柔道部のレギュラーになっている。

現在、退学には至っていないものの、これ以上身柄拘束が続き、学校又は部活を欠席するようであれば、退学に至る可能性が極めて高い。

少年の更生の面からは、退学を避けることが望ましいことは自明であって、観護措置をとることによる不利益が極めて大きい。

第3 結語

以上より、少年については観護措置の必要性はなく、また鑑別所に収容することに伴う不利益も大きいことからすれば、少年自身の更生のためにも観護措置をとらず、在宅での調査・審判を進められるよう、意見を述べる次第である。

なお、観護措置決定手続時には、付添人及び少年の両親が在庁する予定であり、裁判官が少年に伝えること、少年が約束することなどを確認し、それぞれに共有し、今後の環境調整などに生かすためにも、付添人及び少年の両親の陳述録取手続への同席を希望する。

以 上